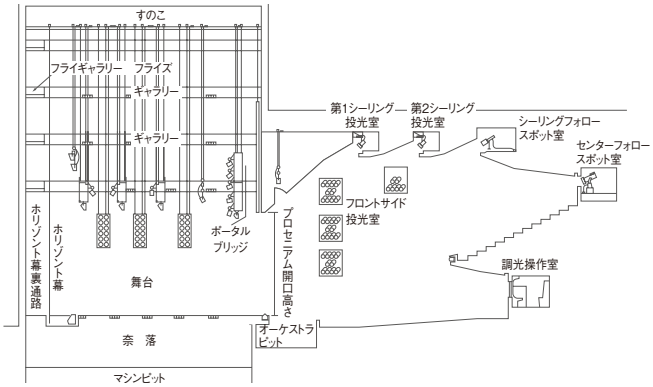
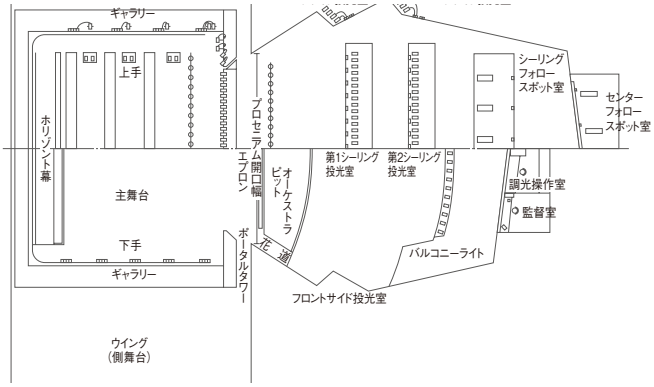
舞台の構造と名称

演出照明設備を考えるとき、その用途、目的を明確にすることが重要となります。これは上演される演劇の種類や催し物の形式などにより、舞台の規模や形（プロセニアムステージなのか、オープンステージなのか）が異なるためです。また、舞台と客席をもつ演出空間は劇場、ホールばかりではなく、広くは講堂、体育館、さらには屋外の競技場や公園など多種多様です。それら演出空間の照明設備は、種々の上演種目に合わせて設計するもので、一律に「基準」という形で標準化することは困難といえます。

実際の照明設計にあたっては、演出空間の建設計画の初期の段階から、舞台芸術に造詣の深い演出家、指揮者、舞台装置家、舞台照明家のチームに助言を求めなければなりません。ここでは劇場を中心に、構造と機構の名称を列記しますが、ほかの演出空間にも適用することもできます。図は近代的な劇場、多目的ホールの構造例です。



側面図



側面図

（日本建築学会劇場小委員会（多目的ホール舞台設計資料）彰国社刊より作成）

舞台各部の名称

●フライズ
緞帳（どんちょう）、道具、照明器具などを吊るすスペースで、プロセニアムからすのこまでの空間を称します。

●フライギャラリー
主舞台の側壁面に沿って舞台床面からすのこまでに数段に設置される作業床、回廊を言います。ここは吊物操作のほか、照明の作業、特殊効果の作業にも使用されます。

●簀の子（すのこ）
ブドウ棚ともいい、すのこ張りになっているところからきた名称です。舞台上部に位置し各種幕、スクリーン、美術バトン、照明バトンなど吊り物昇降設備の一部が設備されています。

●奈落（ならく）
舞台の床下の俗称で、回り舞台や迫りなどが設置される空間を称します。

●アクティングエリア
実際に演技が行われ、客席から見える舞台の部分を称します。

●ウイング
アクティングエリアの側面のスペース部分のことで、ふところとも呼ばれ、これの大きなものは側舞台となります。

●シーナリスペース
舞台装置を飾ったり照明器具を取り付ける部分を称します。

●プロセニアム
舞台と客席の境の開口部を称し、日本の古典芸能を主演目とする場合は間口が広く高さが低いものとなり、古典的なオペラハウスの場合は高さが高くなっています。

●ポータル
プロセニアム開口の内側に、それぞれの演目に応じてプロセニアム開口の幅と高さを調整できる機構で、上下に可動するポータルブリッジと左右に可動するポータルタワーで構成されます。また、舞台側の面に照明器具を組み込むと、有効な機能を果たします。

●ホリゾント
舞台後方の曲面で、天空や地平線の効果を出す背景面です。サイクロラマとも呼ばれていますが、後舞台のある場合は幕を用います。

●エプロン
緞帳より客席側の舞台部分を称します。エプロンが大きく客席に突き出たものは、張出舞台・そと舞台と呼ばれています。

●シルバーブリッジ
オーケストラピットの回りに巡らされた通路舞台です。俳優をできるだけ観客に近づけて親近感をもたすために、現代のレビュー劇場では欠くことのできないエプロンステージです。

●花道・鳥屋（とや）
舞台から突出して客席を貫通した通路を花道と称します。花道は歌舞伎劇場独特の舞台形式として進化したもので、下手側に本花道、上手側に仮花道が設けれます。また、舞台から見て花道のつきあたりにある部屋を「鳥屋（とや）」と称し、花道へ出るための溜まりに使用され、出入り口には「揚げ幕（あげまく）」と呼ばれる幕がかかっています。

●綱元（つなもと）
「綱場（つなば）」とも呼びます。通常、舞台の下手または上手の壁面に設けられています。手動で吊りものを昇降させるためのスペースです。

●舞台奥（ぶたいおく）
観客席から見て舞台の奥の方のこと。

●舞台前（ぶたいまえ）
舞台奥と逆方向。観客席から見て舞台の前の方のこと

●舞台端（ぶたいばな）
「框（かまち）」とも呼ばれています。観客席と舞台との境界のことです。

●舞台袖（ぶたいそで）
舞台の下手・上手の空間のことです。通常、袖幕により観客席からは見えなくしてあります。

●上手（かみて）
客席から舞台に向かって右手の方向を上手と言います。

●下手（しもて）
客席から舞台に向かって左手の方向を下手と言います。